



青春の条件

エピソード2
やましたゆきお



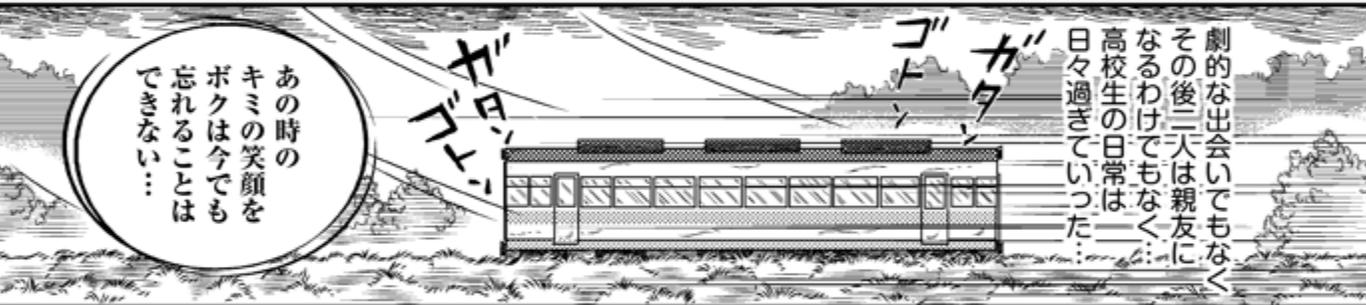
★ 操作方法 ★

マンガのページの上でクリックすると次のページを表示します。右クリックすると前のページに戻ります。

※ Macintosh で、マウスに右クリックの設定をしていない方は、キーボードの「control」キーを押しながらマウスをクリックすると前のページに戻ります。

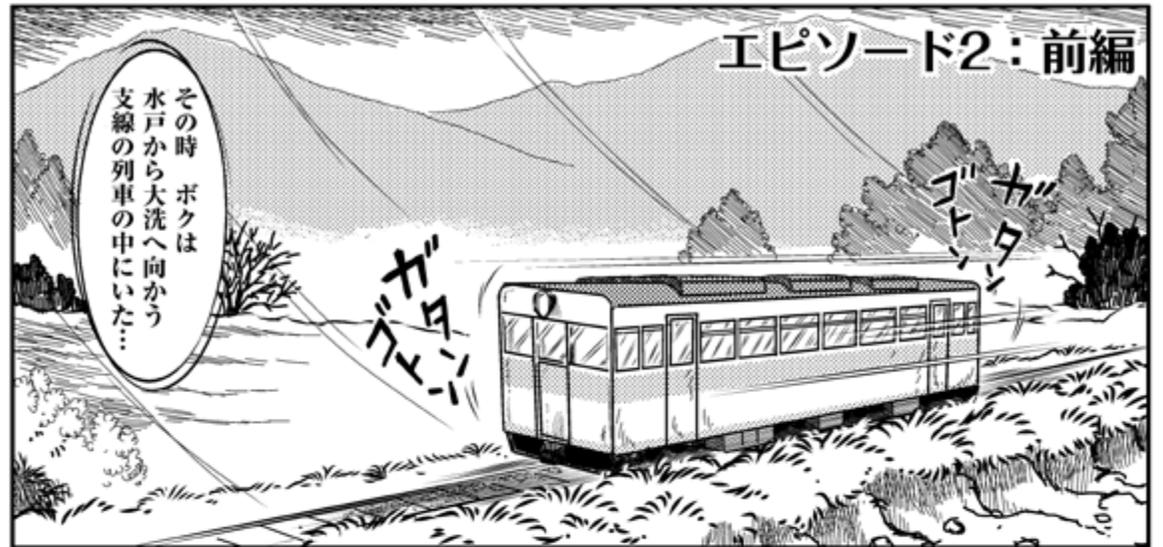
※ iPad では、上下スクロールでご覧いただけます。





青春の条件

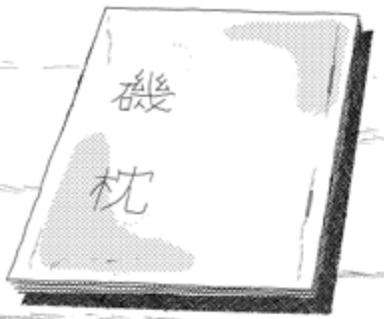
やましたゆきお





夏がすぎ 秋もすぎ
その年の12月に
その詩集は完成した

ワラ半紙にガリ版ずり
十編程の詩が印刷され
ホチキスで綴じられていた



詩集の名は
「磯枕」!!



巻末に書かれた
同人募集の呼びかけに
応えて

数名の仲間
集まった



文芸同人
「磯枕」の
はじまり
だった



あ……
雨……



社会の授業中だった

……というわけで
日本の産業は
第三次産業中心に……

GNPは世界の
先進国の水準に……

国民の所得は
倍増し……

中産階級が
中心になって……



自分の家が
中産階級だと
思う者は?

斉藤 おまえ
手を上げてないけど

上流階級には
見えないけど……



オレの所は
下層階級
だから……

キミは
こつても言った……



七十年安保を
2年後に控え
世の中は騒然と
してきていた……

ニュース番組では
大学全共闘と
警察との小競合いの
様子が毎日の様に
報道されていた……

七十年安保か……
キミはどう思う?



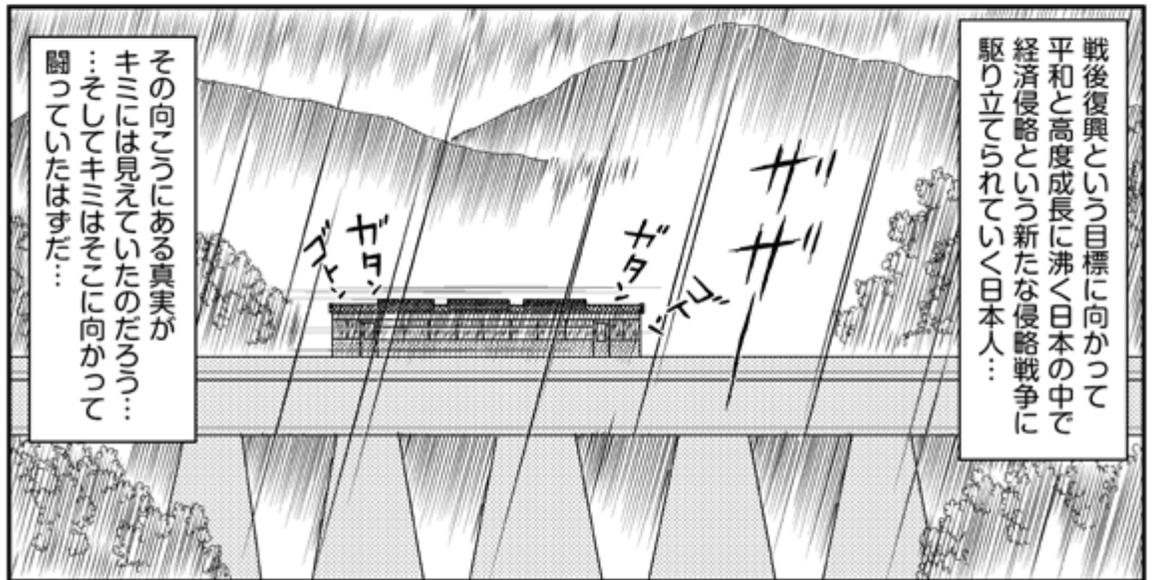
オレは
一兵卒として
闘うよ!

いつへいそつ……

その時ボクには
その言葉の意味が
分からなかった……



平和ぼけのボクには……



戦後復興という目標に向かって
平和と高度成長に沸く日本の中で
経済侵略という新たな侵略戦争に
駆り立てられていく日本人……

その向こうにある真実が
キミには見えていたのだから……
……そしてキミはそこに向かって
闘っていたはずだ……

※この物語はフィクションで、特定の個人・団体とは関係ありません。